

は じ め に

甲府市立玉諸小学校

校長 岩下 清彦

今年度、全面実施された小学校の新学習指導要領では、これまで以上に子どもたちの資質・能力の育成や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指すことが明確になっています。また、高学年に外国語科、中学年には外国語活動が導入されたことによる年間35コマの授業時数の増加や、いじめ、不登校への対応、特別な支援を必要とする児童の増加など、教職員を取り巻く環境は複雑化・困難化するとともに、学校に求められる役割はますます拡大・多様化してきています。

こうした中、本校は平成31年度・令和2年度の2年間、甲府市教育委員会「甲府の子どもの教育総合推進校」の指定を受け、「子どもと向き合う時間を確保し、学びの質を向上させていく教育課程の在り方 ～学校と子どもの実態に即したカリキュラム・マネジメントの実践的研究を通して～」を研究主題として、研究を進めてきました。

授業時数が増加した中学年及び高学年の時間割の編成や、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた時間割の工夫といった新たな課題に対して、学習指導要領に定められた内容を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントの中で、児童の生活時間及び教職員の指導時間をどのように効果的に配分し、児童の生活や学びの質を高めていくかについて研究と実践を進めてきました。

新型コロナウイルス感染拡大により、当初の計画に修正を加えながら、「時間」という限られた資源をどのように教育内容と効果的に組み合わせていくのかという視点をもって2年間にわたって研究実践を進めました。家庭や地域、関係機関のご理解、ご協力をいただきながら、午前5時間制の試行や行事の取組の工夫改善、一部教科担任制の実施などに取り組んできました。その中で、特にコロナ禍にあって有効性が認められた授業時数の確実な確保をはじめ、「たまなび」の時間の活用と学習の定着、時間に対する意識の高まりと生活習慣の確立、子どもたちと教職員双方にとってのゆとりの時間の創出等の点において成果が見られました。また、試行前には気付かなかった課題となる点についても、明らかになってきました。

激しい変化が予想されるこれからの時代に、子どもたちがより良く学び成長していくことができるよう、研究の成果を来年度の研究や今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

結びになりますが、本研究推進にあたり、懇切丁寧にご指導・ご助言を賜りました甲府市教育委員会の皆様、目黒区立駒場小学校・武蔵村山市立第八小学校の先生方をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます、研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。